

が減りつつある。病院に通う老人や、からだの不自由な人などの負担を軽くするため、通院費助成を考えてはどうか。

をもつことは、次代を担う子どもにとって有意義なことだ。横芝中学校で行われている外国人講師による英語教育は、その一環として受け止めているが、その成果と今後の予定を伺いたい。

現在、町として、通院費を含め、それに乗せるといって独自の考えはもっていない。

現在横芝中では、カナダから1人の講師を招いて、週3回の英語指導をしていたら

外国人講師による英語教育

「生きた英語」に接し興味

③外国人と直接コミュニケーションが図れる

- ①生きた英語が体験できる
- ②異文化への理解が深まる



ペニーさんの授業は生徒に好評

などの意見が出され、生徒にも好評である。

これからも、国際感覚のある子どもたちを育てていくために、引き続き実施していきたい。平成4年度の予算にも、関係する経費を計上した。

学校給食の改善

小・中学校と保育所の子どもの年齢差は大きく、

学校給食センターで一括調理する今の給食方式は、献立などに無理があると思う。

①各学校(保育所)ごとの給食が実施できないか。また、

②横芝町内で生産される新鮮な野菜や肉などを、もっと使

うべきだ。とりわけ、週3回実施している米飯給食は、味

が悪いと不評である。③地元産のおいしい米を使った給食

に改善すべきと思う。町の考えは、

①学校給食センターは昭和41年に建設した。それまでは、各学校ごとに給食を実施

していたが、効率のよい給食を行うことや、学校間の差を

なくすために、施設を整備したものの。

配送により料理が冷める、調理員と子どもとのふれあいが

ないなどの短所はあるが、一か所で大量に調理すること

による長所も数多いので、当面は「センター方式」で実施

したい。

②給食用材料については、量・質・価格面の安定供給が第一条件となるが、できるだけ町内から購入するよう

心掛けており、事実、購入もしている。

③地元産の米(自主流通米)を使った米飯給食を実施した場合は、

さらに、年間320万円程度の経費が必要となるが、子どもたちに

好まれる学校給食を行うため、「給食センター運営

委員会」(議会議員、小・中学校長、PTA、校医など13

名で構成)で十分検討していただく。

「日の丸」と「君が代」

「日の丸」と「君が代」

に対する国民の考え方が分か

れている今、公式行事特に学校)での強制はやめるべきと

思う。町はどう考えているか。

「日の丸」(日章旗)を



学校給食の主役は子どもたち(上野小にて)

国旗として、また、「君が代」を国歌とする明文はないが、これらは、国民の生活のなかに溶け込んでいるものと考え

ている。文部省の新学習指導要領では、「君が代」を国歌として斉唱するよう指導する——と一歩踏み込んだものになっており、教育現場では、この要領に従っていきたい。

# 「生きた英語」教育を継続